

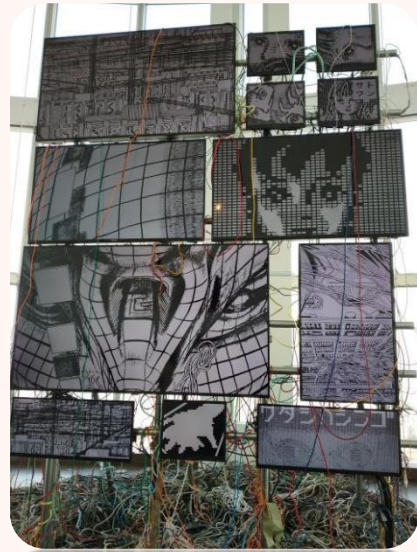
進化と退化 うめず 一榎図かずおのマンガの世界ー



(Drawn by Akino SASAKI)

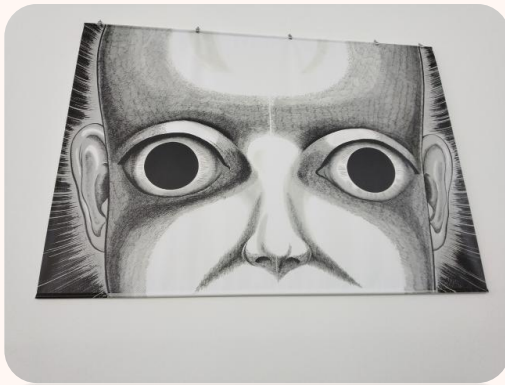
マンガには色々なジャンルがあります。例えば、学園マンガ、スポーツマンガ、恋愛マンガ、冒険マンガ、歴史マンガなどです。そのほかに、ホラーマンガというジャンルもあります。この人は、うめず 榎図かずおさんです。マンガ家です。ホラーマンガの神様といわれています。彼の代表的な作品は、『漂流教室』、『14 歳』、『まことちゃん』などです。

彼は、有名なマンガ家です。しかし、1995年に『14歳』というマンガを描いてから、27年間、マンガを描いていませんでした。その理由は、気持ちの問題です。自分のマンガをほめてくれる人や、高く評価する人がいなかったため、マンガを描くことをやめようと思ったのです。そして、今までやらなかったことをしようと思いました。そこで、仕事では、テレビ番組に出たり、映画を作ったりしました。日常では、英語やイタリア語やドイツ語など、語学の勉強をしました。

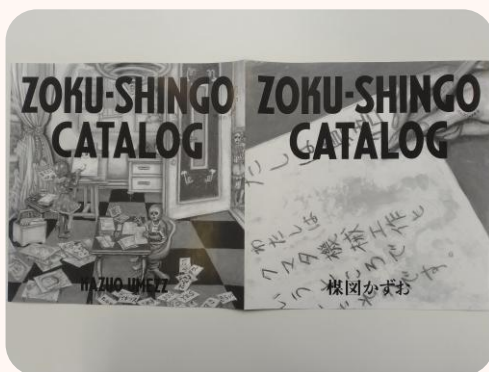


2018年、フランスで開かれるマンガのイベント、アングレーム国際漫画祭で、彼のとても有名なマンガ『わたしは真悟』が賞をもらいました。彼は今まで賞をもらったことがなかったので、とても喜びました。この賞をもらったことで、もう一度マンガを描こうと思いました。

「わたしは真悟」は、1982年～1986年に描かれたSFマンガです。産業ロボットが進化して、人間のように「自分」をもつようになる話です。現在のインターネット社会や人工知能（AI）を予測しています。そして、人間とは何か、神とは何か、自分とは何か、愛とは何か、と問いかけています。



椋図かずおさんは、「今の社会は競争ばかりで、怖いと感じています。どんどん進化して壊れてしまう前に、元に戻りましょう、退化しましょう。」と言っています。そして、彼は27年ぶりに「ZOKU-SHINGO 小さなロボット シンゴ美術館」を描きました。それは、紙のマンガではなく、連作絵画です。つまり、ストーリーが続く絵です。1点の絵を観て楽しみながら、順番に次の絵を観ることで、ストーリーも楽しむことができます。マンガと絵のいいところを合わせた新しい芸術作品です。「ZOKU-SHINGO 小さなロボット シンゴ美術館」は、人間がいなくなって、ロボットだけになった未来の話です。



さて、これからの未来はどうなっていくのでしょうか。

(910 字)

(2022.4 Written by Wakiko FUTAKUCHI)

<参考資料>

- ・ 榎岡かずお大美術展

<https://umezz-art.jp/>

- ・ 「サイカル journal by NHK」ウェブサイト「榎岡かずおさん 27年ぶりの新作で描いた“人類の未来とは”」

https://www3.nhk.or.jp/news/special/sci_cul/2022/01/story/story_220131/

(2022.6.21 ウェブサイト確認)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.